

## 伊賀インカレ リレー予想

尾上秀雄

### <はじめに>

リレーの予想をするに当たって各選手の競技レベルの把握は欠かせない。まず過去1年間のレース結果に基づいて各選手のポイント計算を行った。このポイントは私の考案によるものでコース距離や難易度によって係数が掛かっているが、基本的には所要時間に完全に反比例する数値である。男子482名、女子200名を対象に、ローカル大会、学連合宿、セレクションなども含めた33大会107クラスについて調査した。

まずリレーにおける主要メンバーの力量を把握するために、そのポイントランキング上位の選手を示す。3～8月を前期、9～12月を後期としてその後期のポイント順に並べてある。参考までにIC02とICS03インカレ順位も載せた。次に各大学別にリレーメンバーを予想し、そのポイントから所要タイムを算出して予想順位を付けた。

### <女子> 個人ポイントランキング

ランク	氏名	大学	学年	IC02	ICS03	前期	後期	変化
1	姫野祐子	東北	4	4	1	178	182	
2	高野麻記子	筑波	4	9	5	163	176	
3	浅井千穂	京都	4	7	4	175	175	
4	塚八ゆかり	京都橘女子	3	10	8	171	170	
5	下村佳奈	岩手	3	14	6	170	168	
6	原直子	東京女子	2		3	140	166	
7	皆川美紀子	東京農工	4	12	19	157	166	
8	千葉光絵	宮城学院女子	2		11	131	165	
9	大塚泰恵	金沢	4	16	2	156	165	
10	高橋睦	宮城学院女子	4	21		154	164	
11	杉崎真由子	筑波	3		7	153	162	
12	桑野文	京都橘女子	3	15		144	159	
13	掛谷朋美	千葉	4	33	10	152	159	
14	花木睦子	千葉	3	6	9	156	157	
15	朴峠周子	日本女子	2			148	157	
16	櫻井優子	宮城学院女子	4		12	155	156	
17	菅藤望	金沢	3		16	134	155	
18	宮沢絵美	千葉	3	18		147	155	
19	峯村綾香	奈良女子	2			136	155	
20	池田智里	新潟	3			146	154	
21	志度裕子	東京農工	2		24	137	152	
22	高橋舞	宮城学院女子	4			153	151	
23	原響子	千葉	4	27		141	151	
24	金城千晶	東京女子	3			159	151	
25	車ゆんそん	東京女子	3	35		142	150	
26	森澤寿里	奈良女子	2			142	149	
27	上野恵美子	東京女子	4	28	17	124	148	
28	川島沙耶香	東京女子	4	8	22	165	148	
29	高木麻衣	東京農工	2			136	148	
30	西脇千可子	椋山女学園	3			104	147	

今年はポイントランキング上位に入っている姫野の東北と、同じく下村の岩手が残念ながらリレーチームが組めずに出走しない。常連の東北がいらないのは如何にも寂しいが、岩手の方は若手も入っているので、来年は復活するだろう。逆に今年は10年前に優勝した時から途絶えていた早稲田が復活する。嬉しいことだ。以下各校の戦力を個別に見てみよう。

### 予想メンバーと予想タイム

ランク	大学	予想メンバー / 控え	予想タイム
S	宮城学院女子	櫻井優子(4) 千葉光絵(2) 高橋睦(4) / 高橋舞(4) 阿久津麻美(2)	2:19:26
S	筑波	大保和子(4) 杉崎真由子(3) 高野麻記子(4) /	2:23:02
S	千葉	花木睦子(3) 原響子(4) 掛谷朋美(4) / 宮澤絵美(3)	2:24:36
S	東京農工	志度裕子(2) 皆川美紀子(4) 高木麻衣(2) / 藤澤知美(3) 米谷法子(1)	2:25:22
S	東京女子	原直子(2) 上野恵美子(4) 川島沙耶香(4) / 木暮なつ樹(4) 金城千晶(3)	2:26:28
A	京都	浅井千穂(4) 若木まりも(4) 龍野恵(3) / 伊東佑梨(3)	2:33:43
A	金沢	大塚泰恵(4) 菅藤望(3) 鈴木裕子(3)	2:34:26
A	奈良女子	峯村綾香(2) 森澤寿里(2) 藤原麻理(4) / 今成由子(2)	2:36:00
A	日本女子	中野真希(3) 朴峠周子(2) 石山佳代子(2) / 戸谷千夏(3) 橋本陽子(2)	2:36:34
A	京都橘女子	桑野文(3) 塚八ゆかり(3) 安藤ゆき子(3) / 西田真梨子(1)	2:39:42
B	早稲田	中谷瑞木(3) 築山絢(2) 岡田瑛美(1) /	2:46:32
B	椙山女学園	西脇千可子(3) 江上幸子(3) 鈴木千佳(3) / 志村和子(3) 寺島香織(3)	2:47:40
B	津田塾	関戸紀子(4) 日名有砂(1) 青島優(2) / 山田美帆(4)	2:48:05
B	新潟	池田智里(3) 吉田恵美(2) 田中史織(3) / 荒井友香(2)	2:51:47
	茨城	鳥羽田恵理(4) 吉田なゝ恵(1) 武村法(1) / 高橋弘恵(1)	2:57:22
	静岡	松島佳代子(4) 鈴川はるな(2) 石田侑子(2) / 楡金優美(2) 中島亜香音(1)	3:07:54
	相模女子	吉野真弓(2) 漢那理絵(2) 三輪あづみ(2) /	3:19:30
	立命館	吉田歩美(3) 堤多香子(3) 市川裕子(3) / 岡田美穂(3)	3:23:44
	京都女子	松石苑子(3) 西田幸代(2) 新谷紗代子(2) /	3:29:18
	図書館情報	澤菜津美(2) 家木順子(2) 秋吉佑紀(2) / 亀山幸(2)	3:31:03
	実践女子	青山美里(2) 袴田優美(1) 三矢麻以(1) /	
	埼玉	坂本君江(3) 三ツ矢麻子(3) 西本暁美(3) / 内山喜美子(4)	
	山口	川崎恵子(2) 原志津香(2) 山村綾恵(2) / 松村小夜子(2)	

Rankの目安

S:優勝狙い A:入賞狙い B:1桁順位狙い

## 宮城学院女子

今年はやや精彩を欠いていた櫻井だが、12月の北東セレで2位に入り選手権クラス出場を果たす。リレーの1走はやはりこの人だろう。エース級が1走に出ない限りトップ集団で帰ってこれる。2走は JWOC 選手で伸び盛りの千葉だ。ショート予選3位、東日本2位、北東セレ3位と実績も十分。ここで一気にトップに出ることが十分考えられる。最後は安定感の増した高橋睦が昨年度の鬱憤を晴らす頑張りで抜け出すという展開を予想した。他にも同等力量の選手が多数控えており、どの選手が出ても上位を狙える。

## 筑波

春先は昨年の優勝メンバーの高野しか読めなかった筑波だが、すぐに杉崎が頭角を現したかと思うと、今度はショートの予選通過で自信を付けた大保がここに来て急伸。あっという間に3人が揃ってしまった。特に本セレでこの3人が1、4、6位と他を圧倒し自信を付けたのが大きい。ポイントで計算される予想タイムではMGに4分差を付けられている筑波だが実際のレースではほとんど差はなく、優勝候補の最右翼であるのは間違いない。メンバーは故障の無い限り100%この3人だろう。走順は高野アンカーが固定で1、2走は逆もある。

## 千葉

昨年6位入賞を果たした時と同じメンバーで上位を狙う。メンバーの中では掛谷が力を付け、ショート10位、本セレ2位と好調。全日本リレーでも千葉WEチームの1走で活躍した。原がやや調子を落としているが2年連続での入賞経験はチームに不可欠。しっかり仕上げてくるのは必至で、掛谷 花木 原の走順もありえる。チーム全体での上積みは花木に掛かっている。昨年クラシックで6位入賞を果たした時の走りが戻ってくれば、優勝にも十分手が届く。他の JWOC ライバルにも負けられない正念場だ。足のある宮澤を控えにしたがほとんど差が無い。

## 東京農工

メンバーとしては昨年活躍した藤澤もいるが、思い切って伸長著しい2人の2回生を起用してみたい。さらに1回生の米谷も力を付けてきており層の厚さを感じさせる。来年は間違いなく上位を狙えるだろう。今年良い結果を出すには、若手が無欲に走り、エースの皆川が気負うことなく普通に走れるかどうかにかかっている。そういう意味では、大事なレースで結果を出せていない皆川をアンカーではなく2走で使ってみたい。

## 東京女子

この2年間1位、3位と続いた東京女子も今年は正念場だ。JWOC 選手の原がいきなりショート3位入賞を果たし、田島聖子に代わるチームの中核となった。しかし本セレでは外すなどまだバラツキが大きい。昨年のメンバーは上野、川島だが、川島が調子を落としているのが気になる。現状は上野、川島、小暮、金城、車の5人が横1線だ。不安があるもののこれだけ層が厚ければ今後調子の出た選手を使えば良いので、後は上積みを目指すだけでも言える。走順は原が1走で先行し、後をできるだけつないでいくという作戦が良さそう。入賞は十分圏内にあるが上位進出には苦労するかも。

## 京都

エース浅井を軸にチームを作る。2番手は夏の欧州遠征を含め大会出場回数の多い若木

が当確。あとは昨年1走であっと驚く快走を見せた龍野が、3回生で最後のICに臨む。控えの一番手にいる伊東も伸びてきているのでチーム作りに成功すればさらに上積みがあるだろう。入賞は可能だが上位進出まではむずかしいかもしれない。今年は番場洋子が運営側なので、十分な指導を受けられないのも痛い。

## 金沢

2年前の矢板ICで、いきなり4位入賞を果たして脚光を浴びた大塚にとって最後のICとなった。昨年リレーと一緒に走って気心の知れた菅藤に加え、今年度は各種大会や合宿に熱心に参加して力を付けた鈴木がいるので心強い。入賞を目指す。

## 奈良

藤原の大会参加回数が少ないのでその動向が今ひとつ読めないが当然出るものとして予想した。レース最多出場を誇る峯村と森澤とのチームとなる。峯村はJWOC補欠として強化合宿に皆勤で参加し、夏の欧州遠征を経て大きくレベルアップ。森澤もそれに続く勢いで十分入賞が狙える位置にいる。

## 日本女子

JWOC選手の朴峠を筆頭に石山、橋本と2回生が元気だ。先輩格の中野を含めて同レベルの選手が多いので、チーム作りには最後まで悩むだろう。走順は朴峠2走が良さそうなので中野 朴峠 石山か。

## 京都橘女子

最も安定感のあるエース塚八と、スピードがありコース次第では同等の走りをする桑野の2人は2枚看板として確実。問題は3人目だが、安藤か西田だろう。西田は1回生ながら山岳インターハイ経験者でセンスも良く、メンバー入りすれば上積みも期待できるが、最終的には先輩の安藤になる可能性の方が高いと予想する。走順が難しいが、桑野、塚八と先行して安藤で逃げ残る作戦で入賞を狙うと見た。

## 早稲田

志村聡子を最後に女子部員がいなかった早稲田が復活した。一昨年から1人ずつ入って3人揃い、最少人数でチームを組む。ラスポ ゴールが男子並に速い中谷、JWOC選手の築山、陸上出身の岡田と異色なキャラが揃っており侮れない。注目しよう！

## 梶山

今年の梶山は今までとは違う。12月にリレー形式で行われた京都橘との対抗戦では、塚八、桑野に先行されたものの3走の安藤に追いつき併走したまま最後の競り合いで8秒逃げ切った力は本物だ。1回生も大量に入部しており後輩に支えられてインカレの舞台に臨む。来年を待たず、今年の台風の目になれるか。

## &lt; 男子 &gt;

## 個人ポイントランキング

ランク	氏名	大学	学年	IC02	ICS03	前期	後期	変化
1	青木博人	東京	4	11	1	235	244	
2	櫻本信一郎	東北	4	10	6	208	240	
3	川上崇史	慶應	3	22	3	225	239	
4	久野雄介	東京	4	7	5	236	238	
5	寺垣内航	早稲田	4	23	13	215	234	
6	前田裕太	東京工業	3		32	196	233	
7	小熊武彦	東京	4	4	2	219	232	
8	新宅有太	京都	4	8	8	212	231	
9	浜田尚	東北	3	5		236	230	
10	堀江守弘	東北	4	18	4	230	229	
11	山下智之	東京農工	3		12	204	227	
12	高橋雄哉	図書館情報	2			180	226	
13	楠本俊壮	京都	3	24	8	211	225	
14	三宅文彦	名古屋	3		31	200	225	
15	銚立裕樹	東北	2	17		224	222	
16	坂本貴史	筑波	3		10	220	220	
17	安田太郎	埼玉	3	47		190	220	
18	後藤大輔	東北	2		18	193	219	
19	浜端紀行	東京	4		21	212	218	
20	尾島良	大阪	4	30	29	200	218	
21	樺沢直行	新潟	4	43		198	218	
22	山崎貴彦	東京	1		15	195	217	
23	櫻田隆之	筑波	4	42	17	191	216	
24	山口卓也	岩手	3			190	216	
25	立花聡	早稲田	4			204	216	
26	長谷川裕	京都	4		19	207	216	
27	蒲池卓卓	東北	3		22	216	214	
28	内藤倫孝	静岡	4		14	185	214	
29	小野田剛太	京都	3	21	15	196	213	
30	田中淳一	東京工業	4	36		183	213	
31	赤坂太郎	早稲田	4		24	186	213	
32	小林恭輔	東北	3	19	11	204	213	
33	樋口佳和	東京農業	4	13	34	193	213	
34	樋山邦治	東北	3	31	30	209	211	
35	田村陽祐	筑波	2		7	197	211	
36	李敬史	静岡	4	6	36	210	211	
37	高橋元気	東北	2			191	210	
38	松室隼人	金沢	3	50		200	210	
39	南茂哲也	岩手	3			185	210	
40	吉田武生	京都	4	3	27	211	209	

男子は4人制なので大きな番狂わせは少ない。1走で大きく出遅れて苦労した例は過去にも少なからずあるが、上位校が揃って失敗することは考えにくく、一覧表にランクSで示した東京、東北、京都の3校以外が優勝に絡むのはむしろかしいだろう。入賞はランクAの7校を予想する。この中に岩手が入っているのに違和感を感じる人が多いかもしれない。今までは選手権クラスへ出場する選手すらいなかった岩手だが、今年は2名が出場する。そして短めのコースならある範囲のトップ比で帰ってくる選手が多く控えているためにこういう結果となっている。エース級のいないチームがどこまでリレーを戦えるか注目しよう。一方では昨年7位と入賞を逃した筑波も雪辱を狙っており、このあたりの入賞争いは混沌としていて目が離せない。以下各校の戦力を個別に見てみよう。

## 予想メンバーと予想タイム

ランク	大学	予想メンバー / 控え	予想タイム
S	東京	青木博人(4) 久野雄介(4) 小熊武彦(4) 山崎貴彦(1) / 浜端紀行(4) 安藤誠(4)	2:43:30
S	東北	櫻本信一郎(4) 浜田尚(3) 堀江守弘(4) 後藤大輔(2) / 銚立裕樹(2) 蒲池史卓(3)	2:45:46
S	京都	新宅有太(4) 楠本俊壮(3) 長谷川裕(4) 吉田武生(4) / 小野田剛太(3)	2:52:35
A	早稲田	寺垣内航(4) 立花聡(4) 赤坂太郎(4) 纒坂尚(4) / 尾崎高志(3) 今井直樹(2)	2:57:45
A	東京工業	前田裕太(3) 田中淳一(4) 徳江勇樹(4) 齋藤孝男(4) / 北村俊介(2) 坪居大介(3)	3:02:56
A	筑波	坂本貴史(3) 櫻田隆之(4) 田村陽祐(2) 多田野清人(3) / 佐藤郷(2)	3:04:34
A	慶應	川上崇史(3) 高石哲(4) 小磯奈祐(4) 高橋伸寧(2) / 角幡原太(2) 永井雄一郎(2)	3:11:05
A	静岡	内藤愉孝(4) 李敬史(4) 櫻木伸也(2) 小田村航(3) / 西山洋生(2) 青木邦俊(2)	3:11:58
A	岩手	山口卓也(3) 南茂哲也(3) 及川弘文(2) 記野聡史(3) / 細田北斗(2)	3:14:03
A	東京農工	山下智之(3) 菊地貴志(3) 井上博人(3) 市原孝一(3) / 香川譲徳(2) 荒井隆雄(2)	3:14:05
B	金沢	松室隼人(3) 天谷翔吾(3) 山越順平(3) 中澤宏紀(4) / 平岡雅芸(2)	3:15:07
B	図書館情報	高橋雄哉(2) 宮井一帆(3) 厚主敏治(2) 小柳俊一郎(3) / 成田充(3)	3:16:25
B	名古屋	三宅文彦(3) 樽見典明(2) 太田雄一郎(4) 鶴井達也(2) / 山田祐嗣(2)	3:19:15
B	千葉	小林隆昭(2) 後藤俊介(2) 古川健二(3) 石関圭志(4) / 保前保(2)	3:21:46
B	新潟	樺沢直行(4) 鎌田健太郎(2) 小笠原隆史(4) 天兒英二(4) / 佐藤充洋(3) 田村潔(3)	3:22:54
	大阪	尾島良(4) 中山敏(4) 木村洋介(3) 内田昇(3) / 眞壁浩之(2) 原昇司(3)	3:24:27
	北海道	西村淳史(3) 西岡利泰(4) 川島宗一郎(2) 池陽平(2) / 星河廣樹(1) 山口拓也(1)	3:24:36
	神戸	高橋大輔(4) 金枝敏克(3) 村上堯(2) 村上憲一(3) / 福谷俊行(3)	3:27:16
	東京農業	樋口佳和(4) 東口晴一(2) 金子允(3) 山下貴史(4) / 小林且侖(1)	3:55:58
	山口	森川佳太(3) 平岡正紘(3) 中村倫崇(3) 森田健介(1) / 岩本俊哉(3)	4:07:50
	茨城	京相健二(2) 田口裕也(2) 下村英雄(2) 石母田篤(2) / 佐藤祐樹(2)	4:20:50
	東京都立	松本大輔(3) 米田稔(4) 石井大生(2) 安藤亮(1) /	4:40:49
	埼玉	安田太郎(3) 山田正顕(4) 高崎裕一(3) 君塚晃平(2) / 浅井聡(3)	4:45:34
	大阪市立	中村貴史(4) 米田稔(2) 高橋誠一郎(3) 櫻井良亮(3) / 水石和秀(2)	4:51:25
	立命館	赤木孝信(2) 山床晋也(4) 福西展之(2) 佐藤嶺太(3) / 石崎秀樹(1) 上城圭史(1)	5:05:56
	中央	下山真和(2) 尾崎友昭(2) 関口真宏(1) 吹毛井省吾(1) / 近藤崇(2) 日野大輔(3)	5:52:16

ランクの目安 S:優勝狙い A:入賞狙い B:1桁順位狙い

## 東京

ショート1、2、5位の青木、小熊、久野の3人のエースを抱える東京に死角は少ない。4人目は浜端、安藤もいるが、JWOC選手でショート15位（新人特別表彰）の山崎を使いたい。切れ味は無いが他の2人より安定したつなぎができるだろう。3人が見込めるだけに4人目にはしっかりつなく役割が求められる。その場合の走順は、青木 小熊 山崎 久野になるだろう。

## 東北

東京を追う1番手は東北になる。エースの堀江、濱田が健在な上に櫻本がショート6位、北東セレで1位と絶好調だ。3人が読めるので問題は4人目になるが、これまたJWOC選手の後藤の調子がすばらしい。先輩格の小林、蒲池もいるが後藤を使うことになるだろう。東京に競り勝つには前半で離されない（願わくばリードする）ことが必要なので、堀江、櫻本を1、2走にし、後藤でつないで濱田で勝負という形が考えられる。予想タイムも2分差なので緊迫した好勝負が見られるはずだ。

## 京都

昨年メンバーの新宅と吉田に楠本と長谷川が加わる。新宅は一昨年のユニバーにも選ばれた選手で、足の故障を抱えてはいるものの距離の短いリレーでは期待が大きい。楠本は足だけの男と言われたこともあったが、一昨年JWOCから帰国後にいきなりショートで6位入賞したように、リレーでは大化けする可能性を秘めている。吉田が昨年同様の好タイムを出し、長谷川がうまくつないだときには勝機が生まれるが、東京、東北に比べて、やや決定力に欠けるのは否めない。

## 早稲田

昨年の準優勝チームの内3人が残った。4人目に赤坂を選んだが、尾崎や今井も続いておりあまり差は無い。昨年は3走立花の快走でトップの背中が見える位置まで追い上げたものの、4走で逆に差を広げられてしまった寺垣内が今年に期するものは大きいだろう。走順が展開に大きく影響しそうで悩むところだ。ブランクのあった纒坂がどこまで戻して来るかにもよるが、纒坂を後ろに据えて寺垣内、立花で前半勝負を掛けるのも面白い。

## 東京工業

昨年8年ぶりに念願の入賞を果たした東京工業は、それまでずっと7位や失格が続いていただけに今年も連続入賞目指して燃えていることだろう。昨年の入賞メンバーの徳江と齋藤に、彼らをしのぐ勢いの前田と田中が加わる。むしろ齋藤の今年のレース数が少ないのが気になるくらいだ。場合によっては北村か坪居が出る局面もありえる。全員のレベルが揃っており入賞は十分射程距離にある。

## 筑波

昨年、大ブレーキとなった坂本がエース格となってチームを引っ張る。同じく昨年メンバーで先輩の櫻田が残っているのも心強いことだろう。後は2回生ながら力を付けてきた田村、そして4人目は多田野を予想した。筑波はかつてのような層の厚さが無くなり限られたメンバーからの予想となる。しかし残された2ヶ月間を恵まれた環境で最後のレベルアップをしてくるのも筑波なので期待しよう。

## 慶応義塾

川上、高石、小磯は昨年メンバー。これに2回生の1人が加わる。角幡が健在ならばメンバー入りだが、後期のレース記録が無いので動向が分からない。ここでは高橋をメンバーとしてシミュレーションした。エース川上が好調なので、他の3人がレースをまとめれば一気に浮上できる。

## 静岡

内藤が東日本の21Aでトップと5分差、ショートでも14位など、しっかりレベルアップしており昨年とは一味違う。昨年のICで6位入賞の李もばらつきはあるものの切れ味鋭くりレーでは侮れない。今年は櫻木、小田村と組んで念願の入賞を目指すはずだ。

## 岩手

最初にも書いたが今年注目してみたいのは岩手だ。昨年のリレーは完走できなかったが今年は選手権クラスに出る南茂と山口がいる。この2人を軸に及川、記野、細田、阪本あたりでチームを組むはずだ。難易度があまり高くないコースなら順位を上げる可能性はある。女子チームが出場しないので下村佳奈を4人目にするシミュレーションもしてみたがさすがにちょっと無理があった。しかし難易度が高い場合は面白い結果も。

## 東京農工

昨年2回生ながらチームのベストタイムで走った山下がしっかり成長。大会ではMEクラス出場も含めて安定した走りを見せ、ショートでは予選2位と鋭さも見せる。菊池、井上、市原と気心のしれた3回生4人でチームを組むと見た。菊池は安定した走りでのタイムの読める選手。残りの2人もミスが少ないレースを心掛け、入賞を狙いたい。

### <最後に>

例年、女子に関しては1走の出遅れは致命的ではなく決定力のあるエースの働きが大きい。そういう意味では高野を擁する筑波が一步有利ともいえる。走順を含めた各校の作戦が見ものだ。またコースの難易度をどう見るかによっても予想は変わる。コース設定者の許田重治がどんなコースを組むかだが、年末のNT合宿でコース解説を聞いた限りではオーソドックスなプランをしているので、特に走力やテクニックに偏ったコースではないと見た方が良い。但しトレインが青山なので例年のように易しいコースでは無いだろう。難易度が高いときは、筑波、千葉、京都にやや有利、逆に易しめのときは、宮城、農工、東女あたりが浮上すると見ている。

一方男子は例年1走での出遅れでかなり厳しいレースを強いられている事例が多い。走順には細心の注意が必要である。前半で流れに乗るために準エース級を前半につぎ込むチームが増えているのも事実だ。そうしながら4走にエースを残せるチームが強いチームなのだがそういう点でも東京、東北が一步リード、京都がそれに続くという構図は変わらない。しかしこれはあくまで机上での話で、かつ平均的なパフォーマンスをベースにしているので、実際のレースはこんなものではないだろう。そこにドラマを期待したい。

以上、大会への出場回数の少ない選手の情報に不正確な部分があることと、勝手な予想を書き連ねたことをご容赦願いたい。観戦のスパイスになれば幸いである。